

平成 29 年度 港区立御田小学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・話す・聞く活動の充実。 ・文章の構成についての理解。 ・漢字学習の定着。 ・書くことへの抵抗感の払拭。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア・トリオ学習により話す活動の充実を図る。 ・聞き取るべき内容を自分で判断し、メモを取りながら聞く。 ・主語・述語の関係や、修飾・被修飾の関係について継続的に指導する。 ・文法学習・国語辞典の活用を日常的に行い、定着を図る。 ・計画的な繰り返し学習（漢字学習）。 ・ノートの積極的な活用。 ・相手意識・目的意識をもたせて指導する。
社会	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象についての関心・意欲・態度の育成 ・調べたことから考え、判断する力の育成 ・基本的な観察・資料活用の技能の習得（縮尺から距離を求めるなどの地図の活用方法を身に付けさせる） ・知識・理解の習得（47都道府県の名称と位置、東京都の地形、気候、産業、交通網、主な都市の位置、特色ある地域など）
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や体験活動を充実させ、社会的事象を自分とのかかわりでとらえることのできる教材を活用する。 ・単元ごとに、「疑問をもつ・学習問題をつくる・学習計画をたてる・調べる・考える・表現する・考えを深める」といった問題解決型の学習過程を構成する。 ・児童が発表した後で、「なぜだと思いますか？」「どのような関係（目的）があると言えますか？」などのように発問し、それらが行われている目的や原因を考えさせていく。 ・地図を実際に活用する場面を増やし、地図の扱いに慣れ、地図を活用することの「良さ」を実感させる。 ・地図を読み取る際には、「方位」「地図記号」「縮尺」「等高線」などの要素のうち、どれを使って情報を取り出すかを考えさせる。 ・単元で獲得させたい概念、考えさせたい内容、調べさせたい事実、おさえたい語句・用語を明確にする。
算数	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長さやかさ、重さなどの量感が十分に身に付いていない。 ・自分の考えを友達に説明できるように、言葉だけでなく、図や式を使う方法を身に付けさせる。 ・複雑な問題について、順序立てて考える力が十分でなかった。 ・文章問題の読み取りに差がある。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・操作活動を十分に取り入れるとともに、根拠をもって予想を立てさせる。 ・学習したことを生活や他教科の中で使う機会を意図的に作る。 ・問題解決の方法を、話し合いを通して導けるように、問題の読み取り、表や図に表す、式に表すなど、段階的にとらえられる授業展開にする。
理科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験の技能が十分に身に付いていない。特に、植物や昆虫などを育てて観察したり、一人一人が実験をしたりする体験活動が不足している。 ・科学的な思考力、表現力を育成する必要がある。実験結果から考察を深め、他の事象について考えたり、新たに疑問をもって調べたりする活用力が十分に身に付いていない。文章、表やグラフから読み取り、考えを深める力が弱い。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験の質や量を充実させ、自然の事物、現象についての実感を伴った理解を図る。実験器具を適切に扱うことができるよう、一人ひとりが器具に触れて実験をする機会を増やす。ペアやグループ活動を取り入れ、正しい使い方を確認させる。 ・SAや外部機関と連携しながら情報を共有し、学習活動を充実させる。 ・定型文を用いることで、どの児童も自分の考えをまとめることができるようにする。 ・身に付けたことを日常生活と関連付けて考えさ、科学を学ぶ意義や有用性を実感させる。
生活	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生との交流を計画的に持続的に行うようにし、年間計画と合わなかったため、年間を通して計画的に授業をする。 ・児童が主体的に活動できるような「しかけ」を作る。 ・3年生からの社会につながる分野で、校外に出て学区内を探検する機会をもてるようにし、地域、人、ものとの触れ合いをもっと行う。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や「しかけ」を多く取り入れて、児童が目的をもって主体的に学べるようにする。 ・1、2年生、幼稚園児、保育園児や地域の方との交流を持続的に行えるように計画する。 ・1年生、2年生の校舎が離れてしまい、日常的に交流する機会が少なく、クラス数も異なるので柔軟に動けないことがあるので、計画・連携を密にする。 ・保幼との連携の継続と新しい取り組みを模索すること。 ・活動を通して気付いたことを、自分なりの方法で表現できるようにし、子供の気付きの表現方法として、絵や文の表現以外に動作化を意識させる。 ・植物、昆虫、小動物などの自然に親しむ活動を重視し、近くの公園等に出て自然探検する機会をつくる。

音楽	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱については、友達と気持ちを合わせ、響きのある声で歌おうという意識が身に付いてきた児童が多いが、歌うことに消極的な児童や、周りの声を聴かずに歌ってしまう児童がいる。 ・器楽については、意欲的に取り組んだ児童が多いが、技能の習得については、個人差が大きい。 ・鑑賞については、聴いて感じたことを音楽的な言葉で表現したり友達と共有したりする力を高める必要がある。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱については、姿勢や発声の基本を繰り返し指導してきた。範唱を聴かせる、DVDを見せる、自分たちの歌声を録音して聴かせるなどして美しい歌声をイメージさせる。 ・器楽については、鍵盤ハーモニカやリコーダーの初期指導を丁寧に行う。また、様々な楽器にふれる機会を多くする。楽器それぞれの良い音を響かせて演奏したり、強弱や速度を変化させて表情豊かに演奏したりすることを意識付ける。技能の習得については、できないまま黙っている児童を見落とさないよう、きめ細かに指導していく。 ・音楽づくりについては、即興的な音遊びやリズム遊びを楽しむ児童を育てる。音楽の諸要素を意識しスモールステップで指導する。 ・鑑賞については、身体表現を取り入れたり、ゲストティーチャーによる生の演奏を聴かせたり、日ごろから音楽的な言葉を提示したりして、一人ひとりの感性を大切に作る雰囲気を作っていく。
図画工作	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・道具等の指導を段階的、系統的に進めることによって、知識や技能が身に付き安全に楽しく使うことができるよう指導をすすめてきたが、安全指導についてはより徹底して指導していくことが大切と感じている。 ・指導計画を基に、他教科とよりタイムリーに連携して指導すすめることが必要である。 ・鑑賞と表現の一体化をはかるために、独立した鑑賞の時間の確保し、美術館での鑑賞活動やゲストティーチャーの授業を計画的に系統的に行うことを続けていく。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動の方法を工夫したり時間を十分に確保したりして、鑑賞活動を充実させる。 ・グループ活動を取り入れ、互いの作品の良さを認め合い、苦手意識をもった児童でも活動できるようにする。 ・児童がそれぞれの思いに合わせて材料や道具を選び、表現できるように環境を工夫する。 ・行事や季節に応じた授業計画をする。 ・板書や掲示物を活用して導入を簡潔にし、児童が思い切り活動できるように工夫する。 ・担任と専科が連携して、児童一人ひとりにきめ細かく指導をしていく。
家庭	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と講師が連携して情報を共有し、一緒に授業を進めることが必要である。 ・一人ひとりに役割を与えて展開されているので、授業がスムーズに流れている。 ・実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な知識や技能を身に付けること。 ・実技の活動を多く取り入れることで、児童の実態を正確に把握することが大切である。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と実生活を関連付けた授業を行う。 ・担任と講師が連携して、基本的な技能を確実に身に付けさせていく必要がある。 ・児童同士の教え合いの時間も確保し、体験的な活動を通して、技能を身に付けていく。 ・一人ひとりの役割がきちんとこなせるよう、担任と講師が分担して、児童への助言を行う。 ・グループやペア活動を活用し、学び合える環境を整える。
体育	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の展開を意識した指導計画を立てること。 ・主体的に学習させること。 ・基礎体力の向上や運動量を確保すること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの指導計画を立て、めあてやねらいをはっきりさせる。 ・よいところを見付け合ったり教え合ったりするなど学び合いのある授業を展開する。 ・授業計画を立てる際に、該当学年に応じた運動量を確保すること。 ・学年合同で指導を行い、指導方法を統一する。
道徳	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物資料を用いて話し合うだけで終わってしまうことが多かった。 ・教師主導型の授業展開になり、主体的な判断ができるよう話し合い活動取り入れられなかった。 ・学校行事や体験的な活動と関連させたり、家庭と連携したりして指導を工夫することができなかった。 ・毎回ワークシートに記述させ、児童の考えや心情について教師が把握できるようにしていたが、その時限りのものになってしまった。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を充実させ、自分のこととして振り返らせるようにする。 ・発問に対して児童が発表できる時間を十分に確保する。 ・児童の考えが深まるような発問の工夫をする。 ・児童が主体的に授業に参加できるよう、よりよい教材を開発する。 ・道徳ノートを活用し、児童が自分の考えや思いを自由に書けるようにしたり、授業後に繰り返し見て、その主題について振り返ったりできるようにする。また、教師も評価のポートフォリオとして活用する。
総合	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、前年までの活動内容や連携先の情報を引き継いでおり、計画・実施をスムーズに行うことができた。 ・問題解決力の育成が十分ではなかった。 ・タブレットの活用があまりできなかった。

	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 ・学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。 ・児童の興味関心を大切にし、自ら課題を見付けることができるようにするとともに、調べたこと、考えたことなどを伝え合う活動の時間を確保する。 ・様々な調べ方、まとめ方を提示し、ICT機器も活用しながら、児童が主体的に選んで取り組めるようにする。
国際	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ言葉を実際に生かせるような場の設定を心掛ける。 ・中学年高学年は、振り返りカード等を活用し個々の児童の学びの見取をすることが大切である。 ・数の数え方など、他教科との学びと連携していく。 ・声に出していくことを大切にし、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・中学校との連携を考え、フォニックスとライティングの充実を図る。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って実際にコミュニケーションができる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ・NTとJTとの確認（打ち合わせ）の中で役割を明確にし、指導を進める。 ・児童の実態に合わせて指導が進めていくことができるようJTが工夫する。苦手意識や授業内容が理解できていないと感じられる児童には、授業中日本語でサポートしたり個々に指導したりしていく。 ・毎時間のめあてやtarget languageを確実に身に付けられるよう、振り返りカードを活用し、児童理解に努めると同時に適切に評価することで能力を育てていく。 ・歌やジェスチャーなど身体全体で楽しくコミュニケーションができるような活動を取り入れる。 ・他教科と連携したり、授業の中で積極的に英語を取り入れることで実際に使える言葉としての英語をめざす。 ・ゲストティチャーなど活用し、人との関わり、自他の文化に触れ学べる学習を取り入れる。